

## 第二回 区民版子ども・子育て会議

日時：2015年8月21日（金）18：30～

会場：砧成城ホール4F 集会室D

参加申し込み：55名（運営スタッフ、世田谷区行政職員含む）参加者数：53名

挨拶（松田）

第一回目区民版子ども・子育て会議の振り返り

子育て支援コーディネータ、社協ファミリーサポートセンター、

区民版子ども・子育て会議の大事なことの確認

いろんな立場の人もまざっているが、フラットな関係性の中で話していく

該当する人は手を挙げていく

研究者・保健師・医療関係者・助産師さん・児童館・社協・おでかけ広場・切れ目ない支援検討委員会・地域の子育て支援に関わっている・子ども・若者部・当てはまらなかった人→地域の子育て支援の方です

<配布資料の説明 地域の子育て支援～子育てしやすい世田谷区を実現するために>

妊娠期から子育て期を支える切れ目ない支援 事務局 今井係長から

\*世田谷区で子育て家庭に切れ目のない支援をどうやってやれるのか

ハイリスク → 切れ目ない支援が充実している

普通の妊婦、普通の子育て家庭 → ちょっとしたことでも悩む、困る → ハイリスクにならないために行政ではとどかないところ、地域、地区など身近なところで支えている人の意見はありがたい。

「身近な地区」のネットワークづくり

専門性をいかして相談相手になる保健師さんとどうやってつながるのか

→4月から児童館に子育て支援館が地域に1つできている

→ひろばのスタッフとの連携、つながりをどうやって強化していくか

全区（1） → 地域（5か所） → 地区（25か所）

高齢者は地区での見守り体制ができてきているが、子育て期の地域の支援は充実しているが、生活圏の地区の中でどうやってネットワークをつくって支えていくか重要

妊婦を地域で見守る機会、交流の仕掛けづくり

母親学級で赤ちゃんの泣き声を聞かせたら「初めて聞いた」とびっくりした人もいた。

赤ちゃんに触れる機会ないまま、出産する人もいる！？

ひろばにどうやって妊婦さんをつなげていくか

資料の2枚目以降は母親学級、両親学級の案内

18:53 グループタイム1 アイスブレイク（この時点で46名参加） 進行：松田

立場を超えて皆で話すことが重要なので、世田谷区の子どもたちをみている同じ立場という  
ことで、皆が話せるようにワークしてください

グループごとに自己紹介、アイスブレイク的に「好きなかき氷の味」

19:10 グループワーク2 模造紙に妊娠期の課題が書いてある（この時点で50名）

初めての出産2 / 第二子のお産2 / 双子のお産2 / 転入1

ポピュレーションアプローチでやってみます

1枚に1項目：キーワード→緑に課題に感じていることを書く

1, 2分で各自課題をだしていく

一人1名課題を出して、次の人にまわしていく

カードを出す時には簡単な説明をして

19:10 グループごとにシェアリング

19:20 グループワーク3 実施していること、把握している資源（この時点で53名）

青のポストイットに書く

時間になったらグループでシェアしていくなど、グループで自由にまわす

19:35 グループシェアリング

初めての出産1

●課題

- ・同じ立場の人と知り合うきっかけがわからない
- ・育て方の不安への相談窓口がわかっているか
- ・行政の相談、窓口の多さ

●資源

- ・こんにちは赤ちゃん訪問
- ・さんさんサポート
- ・子育てサロン（区内60か所）

## 初めての出産2（妊娠期）

### ●課題

- ・何もわからない不安と経験不足
- ・出産仲間はどこでつくるのか、行き場がない
- ・情報が手に入れない、または多すぎる

### ●資源

- ・区の子育て応援ブックなど
- ・母親学級、プレママ・プレパパ講座
- ・マタニティヨガ

## <ホワイトボードの記載>

### ●課題

同じ立場 きっかけ  
不安 相談窓口  
何もわからない 経験不足  
仲間 行き場  
情報多い

### ●資源

こんにちは赤ちゃん  
さんさんサポート  
子育てサロン  
子育て応援ブック  
母親学級  
マタニティヨガ

### ●提案

わからないことがわからない→つながる場を作る  
地域とつながる意識  
お産を考える会  
子育てのイメージを持つ  
暮らし全体を考える  
命の大切さ→地域の財産を使って！  
妊娠SOS

## 第二子出産1

### ●課題

- ・上の子の世話が大変
- ・二人目だから慣れているのではないかという目、大切にされない
- ・両親も年を取っていて預けにくくなっている

### ●資源

- ・一時預かり
- ・身内、友達、夫、まわりの人
- ・地域子育て支援コーディネーター

## 第二子出産2

### ●課題

- ・経済的ゆとりがなくなる
- ・上の子の（心の）ケア
- ・父親の意識

### ●資源

- ・ショートステイ
- ・育児手当
- ・ママ友

## <ホワイトボード>

### ●課題

知っているの不安

上の子の世話

慣れている

大切にされない

祖父母も年？

経済的ゆとり

上の子の（心の）ケア

父親の意識

### ●資源

一時預かり

自分の周り的人（夫、家族）

地域子育て支援コーディネーター

ショートステイ

育児手当

ママ友

●提案

上の子のご飯の提供（夕食）

プログラム提供者

お互いに預けあう状況をつくる

→（ひろば）場所（きっかけ作り）

地域の中の常連さんを作る

地域の仲間づくり、子育てサポート力

継続が難しい

交流できる場

多胎1

●課題

- ・不安が大きい
- ・手助け、支援をどこでさがせるか
- ・多胎同士の知り合う機会が見つけづらい

●資源

- ・健康づくり課、地域の多胎自主グループでの交流
- ・さんさんサポート（2人分もらえる）
- ・保育園の指数がアップする

多胎2

●課題

- ・多胎で知り合う機会が少ない
- ・2セットずついるなど準備が大変、経済的問題
- ・労力が倍であることの不安が大きい
- ・母体への負担、健康への心配

●資源

- ・情報提供はあるが、多胎に特化した制度はなく、あまり資源はないのでは

<ホワイトボード>

●課題

- ・不安が大きい

- ・手助けがどこに？
- ・多胎の妊婦さん 知り合えない
- ・保育園に2人入れられるか
- ・準備が大変
- ・経済的に大変
- ・労力も倍
- ・健康に育つのか

#### ●資源

- ・健康づくり課など
- ・双子サークル（地域による）
- ・さんさんサポート（6枚）
- ・双子への支援少ない？

#### ●提案

- ・ふたご chan マークを作る
- ・ふたのにやさしいお店
- ・ふたごコンシェルジェ（つないでくれる）
- ・検索ワード「双子」→情報を集める
- ・双子の街（二子玉川）
- ・双子パパの会

#### <転入>

#### ●課題

- ・わからない状況（頼れる人がいない、行き場がない）
- ・手続き的なこと、体力的なこと
- ・地理にうとい（病院）

#### ●資源

- ・行政からもらえる世田谷区のガイド、母親学級の案内、セルフケア講座チラシ
- ・タイムリーに役立つのかは疑問
- ・妊婦健診のチケットの制度化

転入した時に、妊婦と伝えないと母子保健バックがもらえない

#### ●提案

プレママ専用 子育てアプリ  
転入時のチェック（広報、看板など）  
産院に地域情報  
お母さんを大事にする  
子育てって楽しい  
高校生の時から教育  
赤ちゃんのいるところのツアー  
体験者の話を聞ける  
ひろばで産前ケア  
ひろば一覧

（松田）今まででできたことを補足できる保健師さんいらっしゃいますか？

（矢部さん）

予防接種は住民票から接種時期に送られるが、時期を越して転入した場合には受け損ねることもある

（別の保健師さん）

妊婦健診：23区は同じで14回で補助している  
手厚いところは上限なしというところもある

多胎への特別な支援、制度はできているわけではないが、地域で見守るといい  
地域で安心して育ていけることが大事  
保健師が訪問しているからハイリスクだと思われたくない  
地域づくりから保健師の仕事と思っている、地域の人の手を借りながら取り組みたい

15分 休憩タイムに他のグループの状況を確認  
別のテーマのグループに入る。一人だけ元のグループに残る

20：15

前のグループが作成したものを見ながら話す

20：20

ピンク：これからやってみたいこと、提供できる資源  
妄想OK！予算は考えないで、皆で話しながら書いていく

松田から注意事項

今回は産後ではなく、妊娠中のサポートについての資源を考える  
働いている人が多いことも考慮に入れてみてください

## 20:40 シェアリング

転入

- ・子育てアプリはプレママ専用もつくる
- ・転入手続きの時に「妊婦は申告してください」というものをつくる
- ・転入手続き用紙にか妊婦かチェックできる項目がある
- ・産院に地域情報を置く

第二子

- ・上の子をどうするかが重要なポイント → ご飯（ランチか夕飯）の提供  
きっかけがないと預合いが難しい → ひろばのネイルのときにお母さん同士で子どものあ  
ずけあいの状況をつくる → 個人的な預合いもできる → いざというときの預合い  
予防的に預けあう環境をつくっておく  
「地域の常連さん」で預けられる場所をもつ → ひろば？

多胎

- ・多胎での妊婦はわかりにくい → マタニティマークを多胎バージョンにする → さらに優先的に電車の席もゆずってもらえる？
- ・多胎だと優遇されるお店とかあるといいな
- ・多胎と地域をつなげる双子コンシェルジェ

多胎

- ・子育てアプリの【双子】検索ワードでの情報を集めておく → 双子だから二子玉で？
- ・双子パパの産前教室を

第二子

- ・町内会でもみてもらえるようならいい
- ・いざという時のために地域で子育てサポート力をあげていく
- ・継続していくことの難しさ、近くにいっぱいあれば安心できる
- ・ひろばに妊娠中からイベントに参加できる

初めて



- ・何がわからないのかわからない →同じ立場の人とつながることで不安を共有できる
- ・産院、企業、スーパーなど地域の間がつながる

#### 妊娠前、妊娠中

- ・高校生のうちから赤ちゃんができれば、どうするか教育をする
- ・妊娠したら赤ちゃんのいる施設をツアーでまわる（あそびば、
- ・妊娠したら会社から派遣して話を聞ける
- ・ひろばでも産前ケアを積極的にうちだす
- ・母子保健バックにもお知らせを

#### 初めて

- ・大人社会からコントロールしにくい赤ちゃんを産むというイメージがわからない
- ・地域とつながる意識がない
- ・誰かがやってよかったから自分も出産方法を選んだりする
- ・「お産を考える会」
- ・大人の自己肯定感が大事
- ・妊娠は出産がゴールではない →人生を立て直す機会
- ・命の大切さが伝わらない
- ・助産師が地域で活用されていない →「妊娠SOS」を立ち上げ予定（ほかの地域）
- ・障害があると出産しないのか？
- ・「お産」は楽しいことだと知ってもらいたい

#### <子ども・若者部の中村部長さんから一言>

出産、妊娠の時の困りごとを初めて聞いた気がします。妻からは聞いたことがなかった。相談する方はいっぱいいいそうだという手ごたえを感じた。地域でうまくつながる希望がみえた

#### <松田>

今回は10月2日（金）自分たちがしていること：地域の実践を共有するための  
目標は3月26日（土）に子ども・子育て学会を自身がしていることを発表する機会にしよ  
うと企画しているところです